

令和2年度 伏見南浜小学校
第1回学校評価 アンケート結果と考察

第1回 学校評価アンケート結果について

7月に行った学校評価アンケートでは、400件を超える保護者の方々からの回答をいただき、ありがとうございました。今年度は、昨年度末からの長期間にわたる新型コロナウイルス感染拡大防止に伴った臨時休校中の学習や情報提供に関するアンケートも合わせてとらせていただきました。臨時休校期間中には、児童や保護者の方々に様々な面でたくさんの不安とご心配をおかけしました。学校が再開され、子どもたちの頑張っている姿、そして保護者の方々からの学校に対する期待を十分に受け止め、今後の学校教育活動に生かしていきたいと思ひます。保護者・児童・教職員の思いを大切に、より良い伏見南浜小学校にしていきたいと考えています。

1. 生活面			そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
①	児童	じぶんからすすんで、あいさつをしている。	46.4%	34.7%	14.3%	4.6%
	保護者	我が家では、進んで挨拶するように声かけている。	57.0%	41.3%	1.4%	0.3%
	教職員	子どもが自分から進んであいさつできるように、働きかけている。	45.0%	52.5%	2.5%	0.0%
②	児童	じぶんのきもちをあいてにわかるように、ことばなどでつたえることができている。	47.2%	38.7%	11.5%	2.6%
	保護者	我が家では、子どもに、自分の気持ちを言葉などで表現するように促している。	53.2%	44.0%	2.5%	0.3%
	教職員	子どもが自分の気持ちや考えを言葉などで表現できるように、働きかけている。	52.8%	47.2%	0.0%	0.0%
③	児童	おうちでは、がんばったことをほめてもらえる。	69.9%	19.0%	7.7%	3.4%
	保護者	我が家では、子どものよさを認め、ほめる努力をしている。	44.3%	50.4%	5.0%	0.3%
	教職員	子どものよさを認め、ほめている。	63.2%	34.2%	2.6%	0.0%
④	児童	おうちでは、ともだちのことをよくはなしている。	61.5%	24.6%	9.7%	4.2%
	保護者	我が家では、子どもの交友関係を把握している。	28.4%	59.6%	10.9%	1.1%
	教職員	子どもの交友関係の把握に努めている。	52.9%	44.1%	2.9%	0.0%
⑤	児童	おうちでは、ていねいなことばでおはなしをしている。	30.1%	35.2%	21.2%	13.5%
	保護者	我が家では、丁寧な言葉で子どもと会話している。	11.4%	59.6%	25.9%	3.1%
	教職員	丁寧な言葉で子どもや保護者と話している。	45.0%	55.0%	0.0%	0.0%

2. 学習面			そう思う	大体そう 思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない
①	児童	けいさんやかんじ(ひらがな・かたかな)のちからが、身についている。	55.8%	33.5%	8.7%	2.0%
	保護者	我が子には、読む・書く・計算するといった、基礎的・基本的な学力が身についている。	27.3%	58.8%	12.3%	1.7%
	教職員	読む・書く・計算するといった基礎的・基本的な学力が身につくように取り組んでいる。	71.0%	29.0%	0.0%	0.0%
②	児童	おうちで、じぶんから、しゅくだいやがくしゅうをしている。	58.9%	24.6%	9.9%	6.7%
	保護者	我が家では、家庭学習の習慣が定着するように働きかけている。	30.1%	55.7%	12.8%	1.4%
	教職員	家庭学習の習慣が定着するように、働きかけている。	34.5%	65.5%	0.0%	0.0%
③	児童	がっこう・がくねん・がっきゅうのおたよりを、おうちのひとにわたしている。	73.7%	17.2%	6.9%	2.2%
	保護者	学校・学年・学級だより等のお知らせを丁寧に読んでいる。	29.0%	56.8%	13.1%	1.1%
	教職員	学校・学年・学級だより等のお知らせを、子どもと丁寧に読んでいる。	25.0%	67.9%	7.1%	0.0%
④	児童	がっこうのきょういくもくひょうがわかる。	55.6%	22.8%	13.7%	7.9%
	保護者	本校の学校教育目標を知っている。	16.0%	52.1%	25.8%	6.2%
	教職員	本校の学校教育目標が、子どもや保護者に伝わるように働きかけている。	14.3%	78.6%	7.1%	0.0%
⑤	児童	あんしんして、がっこうですごしている。	74.9%	17.4%	5.9%	1.8%
	保護者	学校が「子どもたちの過ごしやすい学校づくり」を進めていると感じる。	28.5%	63.7%	6.7%	1.1%
	教職員	「子どもたちの過ごしやすい学校づくり」を進めている。	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%
⑥	児童	がっこうでがくしゅうしたことをとおして、じぶんがせいちょうしたとかんじる。	58.7%	30.2%	8.7%	2.4%
	保護者	学校が「子どもたちの力がつく学校づくり」を進めていると感じる。	24.6%	65.4%	8.1%	2.0%
	教職員	「子どもたちの力がつく学校づくり」を進めている。	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%

1. 生活面

- ①「あいさつ」については、本校が掲げている「伏見南浜小学校のみんなで大切にしたい4つのあ」「あいさつ」「あさごはん」「あんぜん」「ありがとう」の一つです。教職員・保護者の約98%が「進んであいさつするように声かけしている。」に「そう思う・大体そう思う」と答えています。児童の「そう思う・大体そう思う」は、約81%であることから、「あいさつ」の大切さが、大人から子どもたちへ伝わっているのではないのでしょうか。約19%の「あまりそう思わない・そう思わない」子どもたちにも今後引き続き、進んであいさつができるよう働きかけていきたいです。
- ②今年度、本校が子どもたちにつけたい資質能力は、「つながり力」「表現力」です。約14%の「あまりそう思わない・そう思わない」児童をはじめとする全児童へ、人とつながることの素敵さを伝え、自分の思いを表現できる子どもたちが少しでも多くなるよう働きかけていきたいです。
- ③「子どもたちのよさを認め、褒める」ことについては、教職員・保護者で高い数値を示しています。これから子どもたちの良さを見つけ、一人一人の子どもたちを大切に見守り、育てる教育を目指していきたいと思ひます。
- ④「子どもの交友関係」について、「そう思う・大体そう思う」保護者約88%、児童約88%が友だちのことについて家庭で話題にしているという結果が見られました。また、教職員も約97%が、子どもたちの交友関係の把握に努めています。今後とも学校での様子をはじめとして「子どもたちの話を聴く(家庭での環境づくり)にご協力よろしくお願ひします。
- ⑤「言葉づかい」に関しての質問については、100%の教職員が「そう思う・大体そう思う」と、子どもや保護者に対して丁寧な言葉遣いを心がけています。学校は子どもたちにとっての小さな社会でもあります。まずは大人から丁寧な言葉を示し、子どもたちのお手本となるよう今後とも心がけていきたいと思ひます。



2. 学習面

- ①「基礎的・基本的な学力が身についているかどうか」の回答については、「あまりそう思わない・そう思わない」保護者約14%、児童約11%です。学校では、子どもたちの基礎的・基本的な学力の向上を目指しています。授業改善や補充学習の充実を図り、子どもたちの学力向上へと取り組んでいきたいと思ひます。
- ②「家庭学習の習慣ができているかどうか」の質問です。「そう思う・大体そう思う」合わせて教職員100%が働きかけています。それに対して、約17パーセントの児童が「あまりそう思わない・そう思わない」と回答しています。今後も継続して、家庭学習に取り組む姿勢が身につくよう働きかけ、自学自習できる子どもの育成に努めていきたいと思ひます。
- ③「お便り」についての質問です。学校からのお便りが確実に渡り、そして丁寧に読まれているかどうかについて、「そう思う・大体そう思う」の回答が保護者約86%、児童約91%でした。子どもたちの学校生活の様子について、たくさんの保護者の方々に関心をもっていただいています。学校ホームページも含めて、更に分かりやすく学校の様子を発信していき、「開かれた学校」づくりに取り組んでいきたいと思ひます。
- ④「本校学校教育目標」についてです。「そう思う・大体そう思う」合わせて約93%の教職員が、子どもたちや保護者に働きかけています。それに対して、約32%の保護者、約21%の児童が「あまりそう思わない・そう思わない」と答えていました。今後も引き続き、本校の学校教育目標が子どもや保護者に伝わるように働きかけていきたいと思ひます。
- ⑤「子どもたちの過ごしやすい学校づくり」については、「そう思う・大体そう思う」合わせて100%の教職員が取り組んでいます。しかし、約8%の保護者、約7%の児童が「あまりそう思わない・そう思わない」と回答しています。学校教育活動全体を通して、全ての子どもたちにとって安心できる学校づくりを、全教職員一丸となって、

3. 臨時休校中の学習や情報提供について			そう思う	大体そう 思う	あまりそう 思わない	そう思わ ない
①	児童	りんじきゅうこうちゅうに、かていがくしゅうのか だいにとりくめた。	65.5%	23.2%	7.3%	4.0%
	保護者	臨時休校期間中における家庭学習の課題は、 適切であった。	17.9%	45.5%	30.7%	5.9%
	教職員	臨時休校期間中の家庭学習課題作り等につ いて、業務は適当だった。(量や内容など)	19.4%	71.0%	6.5%	3.2%
②	児童	りんじきゅうこうちゅうに、がっこうのホーム ページやがくしゅうのコンテンツなどをみた。	41.7%	21.8%	14.9%	21.6%
	保護者	臨時休校期間中における学校からの様々な情 報提供は、適切であった。	27.2%	56.9%	13.4%	2.5%
	教職員	臨時休校期間中の家庭への電話連絡や家庭 訪問、HP作りなどの業務は適当だった。	34.5%	55.2%	10.3%	0.0%

3. 臨時休校中の学習や情報提供について

- ①「臨時休校中の学習課題」について、適切であったかどうかをたずねる質問です。約36%の保護者、約11%の児童から「あまりそう思わない・そう思わない」との回答を得ました。臨時休校が長期に及んだため、まず、課題の量に関しては、子どもたち自身が、家庭で一日に取り組む量の調整が難しかったのではないかと思います。また、既習内容の復習だけではなく、予習学習も取り入れるなど、内容に関しても、子どもたちに戸惑いがあつたのではないかと考えられます。
- ②「臨時休校中の学校からの情報提供」については、学校から家庭への電話連絡、課題の配達、ホームページやメール配信などでお知らせをさせていただきました。約63%の児童、約84%の保護者の方から「そう思う・大体そう思う」の適合度が得られました。その反面約36.5%の児童、約16%の保護者の方々が「あまりそう思わない・そう思わない」の適合度でした。これは、学校に対する期待と受け取らせていただき、さらなる発信ができるよう心がけ、今後の学校教育活動に生かしていきたいと思ひます。



自由記述欄

たくさんの意見をいただきました。ほんの少しですが、紹介させていただきます。

- 児童 「せんせいにきてほしいことがあれば、かきましよう。」
- ・図書館が、早く毎日開いてほしいです。
 - ・宿題を頑張ります。
 - ・学校が始まってよかったです。
 - ・字をきれいにするために指導してほしいです。



- 保護者 「今後に生かすために休業期間中の取組について、ご意見があればお書きください。」
- ・自分ですすめるシリーズのプリントは、子どもが一人で理解して取り組める内容ではなく、させるのが大変でした。A・B班に分かれて行った分散登校は、少人数で学ぶことができ、娘も「良かった。」と言っていました。(先生方は、同じことを2回されるので、大変だったと思いますが。)
 - ・もし今後、休業期間があるなら、オンライン授業は必要不可欠ではないかと感じました。
 - ・担任の先生よりこまめに連絡をいただいていたので、新学級にも抵抗なく、再開後は学級に通うことができたこと思ひます。読書が苦手なため課題図書などを薦めていただけたらと思ひます。
 - ・家庭学習がやりやすい(子どもだけで取り組める)課題の準備をお願いしたいです。ホームページの学校の様子、メッセージは、先生とつながれて嬉しく思ひました。

- 教職員 「学校経営・学級経営・自分の仕事で大切にされていることを教えてください。」
- ・子ども一人一人の個性や特性を尊重し、自己肯定感を高めていけるよう支援すること。
 - ・基礎学力を身につけられるよう授業内容や展開を工夫すること。
 - ・子どもの主体性につながる働きかけをすること。
 - ・やらなければならないことは、責任をもってする。